（公開版）

平成 29 年度　医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業
（アフリカにおける顧みられない熱帯病（NTDs）対策のための国際共同研究プログラム）
中間評価
課題評価委員会における評価コメント

１．研究開発課題名	西アフリカ・ブルキナファソにおけるデング熱媒介蚊制御のための集学的研究
２．研究開発機関名	東京慈恵会医科大学
３．研究開発代表者名	嘉糠 洋陸

ブルキナファソにおけるデング熱伝播制御、住民の感染対策に向けて、デングウイルスやジカウイルスの DNA を検出する vDNA-LAMP 法は、従来の RNA による検出で課題であった温度管理の必要な保管や高度な検査設備が不要となり、熱帯地域や遠隔地での検出法として、今後の現場での応用が期待できる。また、媒介蚊に生息する共生細菌の一種であるボルバキアの TomO タンパク質が、ウィルスの増殖を抑制することを見い出したことは、科学的成果として評価できる。

一方、ブルキナファソの研究者の関与が乏しいため、開発した検出法の検証のために行うフィールド調査において、一層の協力が必要である。また、vDNA-LAMP 法を用いたデバイス開発では、実用化に向けて小型化を行う等実装に向けた検討を期待する。

今後、vDNA-LAMP 法の開発と平行して現地でその検証を早期に実施するなど、得られた基盤研究成果の実用化に向けた積極的な展開を期待する。なお、研究成果の社会実装に向けて、複数ある研究テーマに優先順位をつけて実施することが望まれる。